

対馬萬松院（ばんしょういん） 長崎県対馬市厳原町厳原西里 19

江戸時代に朝鮮半島との外交や貿易を担った対馬藩主である宗家の菩提寺で、元和元年（1615年）に二代藩主、宗義成（そうよしなり）が創建した。安土桃山式の山門と仁王像は、幾度となくあった焼失から免れた対馬最古の建造物で、本堂には朝鮮国王から贈られた青銅製の祭礼用三具足と徳川将軍の大位牌が並ぶ。132段の百雁木（ひゃくがんぎ）と呼ばれる特徴的な石段の先に宗家一族の墓所があり、金沢市の前田藩墓地、萩市の毛利藩墓地とともに日本三大墓地の一つとも言われています。樹齢1200年とされる大スギ3本が荘厳な雰囲気を醸し出す。宗家の歴史が刻まれた国指定史跡。（同墓所パンフと案内版より）



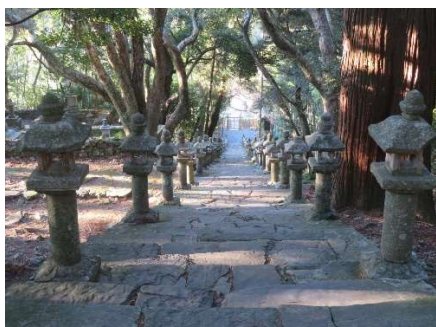
朝鮮通信使歴史資料館



朝鮮通信使の碑



桃山式の正門と仁王像 諫鼓(君主に諫言をしようとする者に打ち鳴らさせるために、朝廷の門前に設けたという鼓で領主が善政を促す閑古鳥の起源といわれている。)



132段の百雁木(上から下)



正室や童子の墓標





日本三大墓地の1つ 歴代藩主墓標



24代義誠(大雲殿)墓標



樹齢 1200 年と言われる大スギ



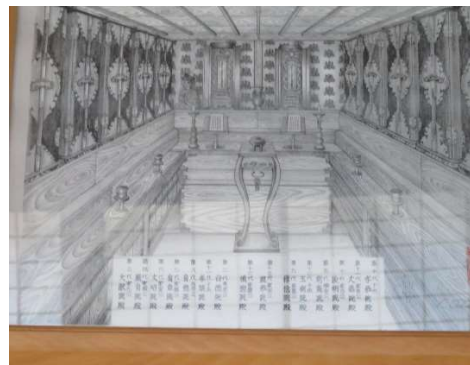
本殿



萬松精舎(後水尾天皇第三皇女鏡宮書)



朝鮮国王寄贈三具足(燭台・花瓶・金香炉)



徳川将軍の位牌と説明図